

葬儀

「いざ」というときに備えて

葬儀費用について知ろう

事前相談が最善策

お葬式に関するトラブルの9割以上は金銭トラブルだといわれています。葬儀の費用構成を見ながら仕組みを見てみましょう。

注意!



◆「葬儀一式〇〇万円」=総費用とは限らない

消費者は「一式」=「すべて」と解釈しがちですが、葬儀社によって「一式」の基準がばらばら。葬儀社の中には「一式」の範囲を小さくして表示料金を安く見せて、追加して料金が高くなることもあるのでご注意ください。

◆商品を選ぶときも葬儀社任せにしない

「一般的にこちらの商品のみなさん選ばれます・・・」「故人さまのためにこの程度はされないと・・・」と、グレードの高い商品をすすめられると断りにくいものです。葬儀社任せにすると高額になってしまうこともあります。



ポイント

- 固定費は内容を吟味し、予算の範囲内で決める
- 商品の必要性だけでなく、不必要性についても詳しく説明してもらう
- 打ち合わせの段階で総費用が分かる見積書を書面で作成してもらう
- 変動費は会葬者の人数によって金額が大きく変わるので気を付ける

まとめ

葬儀費用で後悔しないためには、亡くなってからあわてて葬儀社を決めるのではなく、**事前に複数社から見積を取り、精神的に安定した状態で比較検討することが大切です。**



葬儀の総費用 = 固定費 + 変動費

固定費とは・・・

会葬者の人数に関係なく発生する費用

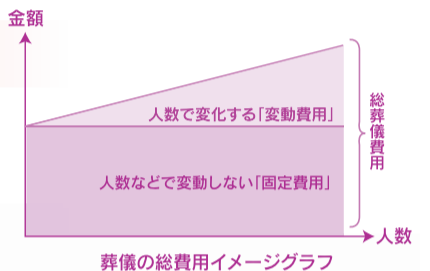
例 会場費、祭壇費用、棺、骨壺、霊柩車、寝台車、ドライアイス、遺影写真、お布施、火葬料金、役所手続き代行や進行などの人的サービス



変動費とは・・・

人数によって変動する費用

例 会葬品、会葬礼状、料理、飲み物代、サービス料など



見積書によっては、変動費が含まれないこともあるので、見積書に固定費と変動費が含まれているか、また会葬者数によって変動費が大きく変わるということを覚えておきましょう。

知って得する なるほど! お葬式講座

“自然葬”ってどんなもの?

最近、「自然葬」という言葉を耳にすることが増えてきました。「自然葬ってよく知らないけど、一体どんなもの?」と思っている方も多いのではないでしょうか。お葬式などについて講演を行っているくまもと県民葬祭の森さんに話を伺いました。



くまもと県民葬祭 森 輝和 相談役

えば、亡くなったご主人はお墓に埋葬していただく、子どももお墓におらず墓守がないから、ご主人の遺骨は自然葬に改葬して、自分も自然葬を希望しているという老婦人もいらっしゃいます。また、子どもがいても娘さんしかおらず跡取りがないからと、同様に考えるケースも多いです。

どの場合も、希望する場所によって条件や自主基準もさまざまなので、勝手なイメージだけで一般の方が自然葬を行ってしまうと、近隣住民や土地所有者とのトラブルにつながることも多いようです。希望するときは、自然葬の経験がある葬儀社などに相談し、アドバイスをもらいながら、慎重に行った方がよいでしょう。

熊本市内には南阿蘇に「つじ霊園自然葬の里」という場所があります。通常の自然葬では、遺骨を粉砕したものを散骨しますが、この自然葬の里は墓地であるため、散骨ではなく埋葬することができるといいます。遺骨を細かく粉砕する必要がなく、区分けされた場所に穴を掘って遺骨を埋められます。阿蘇くじゅう国立公園特別地域内にあり、阿蘇五岳が一望できる大自然に囲まれたとても静かな場所です。利用料金が必要ですが、お墓や納骨堂のように管理費や年会費など、その後の費用がかからないため、県内をはじめとして関東や関西からも利用されています。

注意

みなさんは、自然葬と聞くとどんなイメージを持ちますか? そもそも、定義としては墓などを建てず、火葬後に遺骨や遺灰を海や山などにまくことで、自然に還そうとする葬送の方法

では、自然葬を希望する場合に、気を付けたい点をご紹介します。

自然葬とは・・・

「家族葬」や「音楽葬」が儀式のスタイルを指すことにに対し、自然葬は儀式のスタイルではなく、火葬後の遺骨をどうするかという点で、自然に還す方法が指します。日本における自然葬は、海洋への散骨や陸地での樹木葬という形が一般的です。最近では日本でも自然葬を望む声が増えています。主な理由として、

法律的な制約

「墓地、埋葬等に関する法律」があり、「焼骨は墓地以外の区域に埋めてはいけない」と規定されています。そのため、遺骨は自宅に置くか、墓地に埋葬、納骨堂に納骨しなければいけません。

改葬して自然葬にする人も

お墓に既に埋葬していた場合でも、自然葬へ改葬するといったケースも最近では増えてきました。例

つじ霊園自然葬の里



つじ霊園自然葬の里に関するお問い合わせは、くまもと県民葬祭までどうぞ。

- お墓を建てても管理してくれる人がいない
- 残された家族に維持・管理で迷惑をかけたくない
- 自然の循環の中に還りたい
- 核家族化や少子化、都市圏での墓地不足など社会的な要因

業界では自主基準として、焼骨は2mm以下に粉砕する場合があります。海に散骨する場合は、陸から一定距離離れた漁場などではない海域であること、山などへの散骨の場合、

今回は「くま経プレス10月号」掲載 (9月26日発行) 次回テーマ 想いの伝わるお葬式にするには このコーナーではみなさんからの葬儀に関する質問・ご意見をお待ちしています。また、取り上げてほしいテーマがあればお葉書またはメールにてお寄せ下さい。 〒860-8552 (住所記入不要) 「くま経プレス お葬式講座」係まで ☒ press@kumamoto-keizai.co.jp